

10. グランドデザインの進捗状況

グランドデザインの4つの目標 進行管理報告書 令和元年度(2019年度)

グランドデザインの4つの目標とは「豊中市立図書館の中長期計画 豊中市立図書館グランドデザイン」(平成26年3月策定、以後グランドデザイン)において、令和5年(2023年)までに図書館のめざす姿を実現するために設定されたものです。

図書館のめざす姿を実現するため、28のプランを優先順位の高いものからすすめることになっています。この優先順位の高いプランの実施状況を確認することで、グランドデザインの進捗状況の点検をすすめていきます。進行管理については以下のとおり行います。

- ・0~4の目標のうち、複数のプランがあるものについては、図書館の使命および関連の事業計画や当該年度における図書館を取り巻く現状などに照らし合わせ、年度ごとに優先順位を決定します。決定には直接サービスに関わる分館の施設長等も関わります。
- ・28のプランを関連する4つの目標(1~4)と目標実現を支える取り組み(0)ごとに分類します。
- ・28のプランの優先順位の高い取り組みを抽出し、事業ごとの取り組みや課題、次年度に向けての予定を達成状況とともに表しています。
- ・優先順位の高い取り組みがどの程度達成できているか確認することにより、図書館のめざす姿の実現に向けての進行管理とします。

達成度 ◎：十分達成できた ○：おおむね達成できた △：一部達成 -：未達成

1. 学びによる市民と地域の自立を支えます。 該当プラン ⑳・㉑・㉒・㉓・㉔

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、令和2年度に向けての取り組み
<p>【優先的な取組プラン：㉑サービスを具体的に例示し、図書館活用の幅を広げます】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムリプレイスにともない図書館ウェブサイトを更新しました。 ・豊中市立図書館パスファインダー検索ナビ「認知症」「新聞記事」「国際交流」など5タイトルを改訂しました。 ・子ども文庫の紹介スライド『いい場所みつけ！豊中の子ども文庫』(DVD)を制作しました。 	○	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への図書館サービスに関するPR手法についての検討㉑ <p>【令和2年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドや動画など、多様なメディアを活用した図書館サービスや活動のお知らせ、市民への情報リテラシー支援を引き続きおこないます。㉑

2. 市民の利便性を向上させあらゆる情報を提供します。 該当プラン ㉕・㉖・㉗・㉘・㉙

優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、令和2年度に向けての取り組み

<p>【優先的取組プラン：⑰ セルフ貸出・返却・予約受取ができる環境を整えます】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野畑図書館にセルフ式予約受取棚を設置しました。また東豊中図書館、服部図書館のセルフ式予約受取棚の利用実態についてのデータを検討した結果、システムリプレイスに合わせて千里図書館の予約受取棚を他の図書館と同じ簡易型の棚に変更しました。 	◎	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフ貸出機、返却機のさらなる活用の検討、セルフ式予約受取棚設置に向けての図書館システム変更なども含めた環境整備 ・フロアワークの充実や利用者の利用動向についての分析が必要。⑰ ・サービスポイント設置に向けた環境整備⑱
<p>【優先的取組プラン：⑲ 予約資料の受取場所の拡充を検討します】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)中央図書館基本構想策定に向けてサービスポイントの機能などについて検討をおこないました。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯サイトに利用者バーコードを表示する機能の追加。 ・Web 予約パスワードを利用者が図書館ウェブサイト取得できる機能の追加。⑳ <p>【令和2年度に向けての取り組み】</p>
<p>【優先的取組プラン：㉑ ICTを活用したサービスを提供します】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年(2019年)12月29日～1月6日にかけてシステムリプレイスをおこないました。 ・セルフ返却機を蛍池、東豊中、服部図書館に設置しました。 ・野畑図書館にセルフ式予約受取棚を新設し、千里図書館の予約受取棚を他の図書館と同じ簡易型の棚に変更しました。 ・セルフ貸出機を蛍池、東豊中、服部図書館に各一台増設しました。 ・システムリプレイスにあわせて、図書館ウェブサイトをリニューアルしました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフ貸出・返却・予約受取棚などのICT機器が未設置の館について、適正な設置の検討を進めます。⑰ ・サービスポイント設置に向け、環境整備について検討し、実現に向けて取り組んでいきます。⑱ ・セルフ式予約受取棚、セルフ返却機が未導入の館への導入を検討します。 ・(仮称)南部コラボセンター、(仮称)中央図書館基本構想にむけてICT機器の活用を検討します。㉑
<p>3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します。該当プラン ④・⑦・⑧・⑭・⑯・㉒</p>		
<p>優先的な取組プランと事例</p>	<p>達成状況</p>	<p>課題、令和2年度に向けての取り組み</p>
<p>【優先的取組プラン：⑦館ごとの目標設定】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課の組織目標に基づいた各館の目標を設定し、事業に取り組みました。また、(仮称)中央図書館基本構想の策定に向けて、中央図書 	○	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画に基づく施設再編方針をふまえて、(仮称)中央図書館基本構想での長期及び短期の目標の設定⑦

<p>館の開架冊数や書庫の規模、収容冊数など、図書館ごとに検討しました。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 適切な図書館サービスを展開するため実施する調査項目の精査検討と実施⑭
<p>【優先的取組プラン：⑭調査分析】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドデザインで掲げた「登録率を市民の60パーセントまで引き上げる」という目標について検証するため、基礎的な調査として30万人都市及び中核市における個人実利用者数（個人有効登録者で年度内に1度でも図書館を利用した利用者数）を調べ、豊中市との比較をおこないました。 	○	<p>【令和2年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物や設備の老朽化および（仮称）中央図書館基本構想で示していく図書館施設のあり方や配置の検討等をふまえ、各館の目標を設定します。⑦ ・ニーズに沿ったサービスを実施するため、令和元年度に実施した（仮称）中央図書館基本構想策定に向けたアンケートで寄せられた意見の分析をおこないます。⑭
<p>4. 学校図書館の支援を通じて子どもたちの学びの基礎作りを支えます。 該当プラン ⑪</p>		
<p>優先的な取組プランと事例</p>	<p>達成状況</p>	<p>課題、令和2年度に向けての取り組み</p>
<p>【優先的取組プラン：⑪学校図書館を支援する人材の配置】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）庄内さくら学園に向けた学校図書館統合を円滑に進めるため、担当者会議等を開催し情報共有と調整をおこないました。また関係各所からの応援にもとづき蔵書統合にかかる箱詰め等の作業を分担しておこないました。 ・学校図書館教育に関する研修について、担当者間で情報共有と内容の見直しをおこないました。 ・新任学校司書の研修を見直し、選書について追加で研修をおこないました。 ・知的探究合戦「めざせ！図書館の達人」、豊中市ビブリオバトルチャンピオンシップ中学生大会、子ども読書活動フォーラムを開催しました。 ・大規模校等の支援にあたっては、本の修理や装備などを有志の図書館サポーターが担いました。 	○	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書と公共図書館司書の業務のあり方について、検討が必要です。⑪ <p>【令和2年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館、公共図書館ともに今後の司書の役割、あり方について検討を進めます。 ・大規模校等の学校図書館支援に出向く人材を配置します。 ・（仮称）南校の学校図書館統合に向けた準備を進めます。⑪

0. 1から4の目標実現を支えます。 該当プラン①・②・③・⑤・⑥・⑧・⑨・⑩・⑫・⑬・⑮・⑰・⑳・㉒		
優先的な取組プランと事例	達成状況	課題、令和2年度に向けての取り組み
<p>【優先的な取組プラン：①最適な実施手法の確立】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野畑図書館でセルフ式予約受取棚を設置。千里図書館でセルフ式予約受取棚を簡易型に変更しました。 ・(仮称)南部コラボセンター開設に向けた詳細な図書館フロアイメージを作成、コラボセンターと(仮称)庄内さくら学園との連携について検討しました。 	○	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務事業の目標達成に向けての工程の具体化 ・今後の図書館のあり方についての職員間における情報共有① ・常勤職員が減少するなか、多様な雇用形態での運営管理の継続実施に向け、また、中期的には、図書館全体の再編後の安定的な運営に向けて各職域の役割の再検討が必要。 ・BCP(「読書振興課 業務継続計画」)については危機状況下での事業継続のための体制・業務・役割等を各職員が年度ごとに繰り返し確認すること、また、新たな危機が生じた場合の速やかな見直し・改訂が必要。⑤ ・人員の見直しに伴う多様な雇用形態のなかでの運営管理の継続実施、貸出等一部業務のセルフ化による効果の最大化 ・労働市場の変化に対応し、優れた人材の確保、及び図書館事業の継続性の確保⑥ ・経験年数や役割に即した体系的なプログラムの検討⑨ ・中央図書館機能を持った図書館を核とした施設配置のあり方の検討⑫
<p>【優先的な取組プラン：⑤職員の役割分担】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化・迅速化をはかるために、貸出室担当者連絡会・子ども室担当者連絡会に相談役として、引き続き施設長・副館長のなかから1名ずつ配置しました。 	△	
<p>【優先的な取組プラン：⑥採用計画の作成】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務事業の見直しの今後の達成に向け、公共施設等総合管理計画に基づく施設再編方針や令和2年度策定予定の(仮称)中央図書館基本構想などを見据えた、適正な人員配置について議論をおこないました。 	△	

<p>【優先的取組プラン：⑨体系的な研修の実施】【事例】・文部科学省国立社会教育研究所主催の図書館司書専門講座や公益財団法人日本図書館協会（J L A）中堅職員ステップアップ研修にそれぞれ1人が参加しました。また、この他にもレファレンスサービスや障害者サービス、子ども読書活動、ヤングアダルトサービスなど職員の人材育成上必要な研修について継続して受講の機会を設けました。さらに、図書館司書専門講座（国立教育政策研究所）及びJ L A中堅職員ステップアップ研修（公益財団法人日本図書館協会）の参加者による研修報告をおこない、成果の共有化を図りました。</p>	○	<p>【令和2年度に向けての取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）中央図書館基本構想策定に向け有識者や関係団体のヒアリング、市民ワークショップ、庁内会議等を実施します。 ・（仮称）南部コラボセンター開設に向け、（仮称）庄内さくら学園及び関係部局との連携事業について検討を進めます。① ・将来的な司書業務のあり方の検討をおこないます。⑤ ・地方公務員法の改正により、令和2年4月から一般職非常勤職員・臨時職員がそれぞれ、会計年度任用職員・臨時会計年度任用職員となります。 ・他部局や学校図書館から新たに配属された職員を対象とする図書館の業務研修を引き続き実施します。 ・セルフ機の効果を最大化し業務の効率化・負担減少につなげます。
<p>【優先的取組プラン：⑫ 施設配置の最適化】</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）中央図書館基本構想の策定支援業務委託事業者の選定、市民アンケート・来館者アンケートを実施、骨子を作成しました。市民との合意形成の一環として図書館関係団体を対象に公共施設マネジメントに関する勉強会を開催しました。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）中央図書館基本構想の策定及び施設の再編のなかで職員体制に関する議論もおこなっていきます。⑥ ・職員の多様な雇用形態をふまえ、経験年数やそれぞれの役割に即したキャリア形成の視点を重視した体系的な研修を企画するとともに、さまざまな外部研修への参加を通して、市民サービスの向上につなげていきます。⑨ ・（仮称）中央図書館基本構想の令和2年度中の策定に向け、有識者や関係団体へのヒアリング、市民ワークショップ等を開催します。あわせて庁内会議において、中央館機能を持った図書館を核とする施設配置や機能分担のあり方について検討をすすめます。⑫

11. とよなかブックプラネット事業

学齢期の子どもたちの多様な読書・学習活動をささえるため、学校図書館と公共図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備し、相互の連携強化に取り組んでいる。

小学校においては、学校図書館を活用した授業例「とよなかスタンダード*」概要版を新任の小学校教員などに配布するとともに、研修で活用した。

中学生を対象としたビブリオバトル大会を開催し、本の紹介を通じて読書のきっかけづくりとした。教職員への研修では、小中学校9年間を見通した学校図書館のメディアセンターとしての機能に着目し、タブレットを導入した多様な情報の信頼性を考えて収集・吟味する授業の実践発表をおこなうなど、小中学校の取り組みを推進した。

*とよなかスタンダード＝図書館教育（情報活用教育）を通して子どもたちにつけたい力を示した指導体系表と学校図書館を活用した授業例（年間計画）

12. (仮称) 中央図書館基本構想

令和2年度の「(仮称) 中央図書館基本構想」策定に向けた取り組みは以下のとおり。(4 ページ参照)

<アンケート調査の実施>

市民ニーズの把握のため、無作為抽出した15才～89才の市民を対象とした郵送による市民アンケート調査と中学生以上を対象とした来館者アンケートを実施した。市民アンケートの有効発送数は2,986票で回収数は829票、来館者アンケートの配布数は1,995票で回収数は1,681票であった。

今後の図書館のあり方について、駅などへの貸出・返却ポイントの設置、飲食スペースや子ども向けのスペースを求める回答の割合が両方のアンケートで高く、蔵書の充実、現状のサービスと施設の維持を求める回答は来館者アンケートに多かった。

<(仮称)中央図書館基本構想策定委員会の開催>

庁内会議である(仮称)中央図書館基本構想策定委員会を設置し、会議を2回開催して庁内関係各課と構想策定に向けた検討をおこなった。1回目は、豊中市立図書館の現況報告、他市との比較、他自治体先進事例の紹介と、市民アンケート実施に向けた検討を行った。2回目には、図書館職員プロジェクトチームで検討した課題分析およびコンセプトを盛り込んだ骨子案をまとめた。

<公共施設マネジメント勉強会の開催>

令和2年2月に図書館関係団体と共に勉強会を実施し、図書館関係団体に所属する23人が参加した。講師に一般財団法人建築保全センターの池澤龍三さんを招き、公共施設の更新や改修の必要性を学ぶ機会となり、中央図書館の整備と施設再編について理解を深めた。